

# にいがたイナカレッジ

【目指すもの】地域に共感して、一緒に汗を流して一緒に活動する“多様な担い手”を増やしたい。

一過疎化が進んでもその地域に関わる人や応援してくれる人（共感者）がいて、それによって地域の人たちが「まだまだ頑張れる」という前向きな気持ちで暮らし続けられる地域・人を残していきたい。

一都市に暮らす若者等にとって、農村地域の人や暮らしに触れることで様々な価値観に出会い、自分に合った“生き方”を見つけるきっかけを作りたい。

## イナカレッジプログラム

### イナカレッジラボ、はたらくらすラボ

目的：都市部在住の地方に興味がある若者との関係性づくり。イナカレッジに参加してもらうきっかけづくり。

内容：地方で何かやりたいと考えている若者に対して、一人ひとりの要望の応じたプログラムづくり・提供や、これからの生き方に悩む若者の人生相談など。

### お米レター【新潟市、村上市、出雲崎町、関川村】

目的：お米と手紙からはじまる地域と学生との関係性づくり  
内容：県内一人暮らし学生を対象に、農村地域から米と手紙を発送し、受け取った学生から農家にお礼の手紙と料理の写真を郵送。その後お礼・お手伝いツアーを実施。

### おてつだいPLUS【新潟市、村上市、出雲崎町】

目的：県内に住む若者と地域・農家との関係性づくり。  
内容：農作業の繁忙期、地域の共同作業やイベント等の単発的なお手伝いに対して、お金ではないお駄賃を提供。

### ツアー型地域づくりプログラム【魚沼市、村上市、新潟市】

目的：地域に興味を持つ人を増やす。地域に共感して一緒に汗を流してくれる担い手を育成する。

内容：都市部に暮らす人々を対象に、地域の課題解決や地域のプロジェクトに関わり、メンバーの一員となって一緒に地域づくりを実践するプログラム。

### 地域実践型インターン【柏崎市・出雲崎町・関川村・村上市】

目的：学生の学び・成長×地域の課題解決等を図りつつ、地域に関わる担い手を育成

内容：【期間】1か月／【プログラム】単なる労働力の提供ではなく、地域に応じたテーマを設定して活動する実践型農村インターンシップ。  
【実績】(H28) 9地域22名 (H29) 5地域15名 (H30) 8地域24名 (R1) 15名

### 地域型1年インターン（H24～29）【中越地域】

目的：中越の山村の担い手確保・育成  
内容：【期間】1年間／【生活費補助】5万円/月／【主な対象】社会人（学生）／【プログラム】地域の仕事や暮らしを学び、自分にあったライフスタイルを見つける・創る・実現する。

### アグリパス【小千谷市、柏崎市】

目的：新規就農・農業に関りを持つ担い手の育成。繁忙期の農業者の人手不足解消。

内容：【期間】1年間／【生活費補助】8.5万円/月／【プログラム】農家のお手伝いと集落の暮らしからはじまるライフスタイル型就農プログラム。

## 地方に関わる きっかけづくり

## 日帰り・数日型 プログラム

## 通い型 プログラム

## 滞在型 プログラム

## 長期滞在型 プログラム



## 自治体サポート事業

### 移住プロモーション・ライフスタイルカフェ 【新潟県、新発田市、柏崎市】

目的：新潟に興味を持つ人を増やす。個人情報の取得。  
内容：東京で“地方”“新潟”を喚起するイベントや移住相談会を開催。（H30テーマ『ローカルとアート』『起業×新潟』『地域旅×新潟』『ウィンタースポーツ×新潟』『リモートワーク×新潟』『新潟×食と農』『ローカル家計簿』）

### 地域おこし協力隊受入体制づくり・募集支援・コーディネート【出雲崎町、新発田市、柏崎市、見附市、胎内市】

目的：地域にとっても協力隊にとってもwinwinな地域おこし協力隊制度の運用。  
内容：受入地域に対する協力隊の正しい理解、プログラムづくり、募集活動、導入後のフォローアップなど、市町村単位の地域おこし協力隊に関わる総合的サポート。

### 地域おこし協力隊研修【新潟県】

目的：新潟県内の地域おこし協力隊の円滑な運用をサポート  
内容：新任協力隊対象、任期終了を見据えた協力隊対象研修会をそれぞれ実施

### 移住者受入研修【県内18市町村】

目的：県内の移住者受入の機運づくり・体制づくり。  
内容：地域住民等を対象に、移住者を受け入れるための具体的なノウハウなどを学ぶ研修会を実施。ワークショップを通じて、移住者受入を活発化していくための具体的なアイデア出しを行う。

## 地域サポート

### 中山間地域等直接支払い事務局【小千谷市】

目的：中山間地域等直接支払い制度の円滑な運用とこれをきっかけに中山間地域の農業の課題解決に向けた支援。  
内容：広域協定事務局としての事務作業。試行加算事業等を活用した担い手育成など。

### 地域の話し合い支援・ビジョン策定 【上越市・三条市・新発田市・妙高市】

目的：地域内での話し合いや合意形成・計画策定。  
内容：地域住民へのヒアリングやワークショップ等を通じて、課題の整理、地域の目指す方向性、それらにもとづく具体的な活動展開などの話し合いや計画策定を支援。

### 道の駅・農産物直売所開業支援業務 【群馬県片品村・長野県栄村ほか】

内容：道の駅や農産物直売所の開業に向けた各種調査、アンケート、国等の公的資金活用申請、基本構想・基本計画策定、開業に向けた農業者等の機運づくり・出荷者組織立ち上げ、店舗の運営等をサポート。

### 市民協働推進計画策定・条例【新発田市・長岡市】

目的：市民協働推進に向けた計画策定に関わる総合サポート。  
内容：市民アンケート、活動団体ヒアリング、委員会の運営、計画案づくりなど。

### 復興地域づくり【糸魚川市】

目的：糸魚川大火（2016.12発生）の復興地域づくりの推進。  
内容：大火跡地の利活用と市民協働の仕組みづくり。復興地域づくりに向けたワークショップや具体的な地域活動・団体の立ち上げおよび活動の支援など。

### 無人駅利活用【出雲崎町】

目的：町の玄関口として、人々が集い賑わいのある出雲崎駅の有効活用に向けた具体策と実施スキームづくり。  
内容：JR出雲崎駅の利活用に向けて、町内関係者に向けた勉強会やヒアリング、ワークショップの開催、実施可能な利活用方策の立案、実施スキームの検討など。

# 地域に関わるきっかけづくり（イナカレツジラボ・はたらくくらすラボ・オンラインワークショップ）





# 地域に関わるきっかけづくり（お米レター）

新型コロナにより、授業がすべてオンラインになり、アルバイトもできず、家から外に出られない県内の一人暮らし学生に対して、イナカレッジとお付き合いのある農村集落から「お米」と「手紙」を直接手渡す。

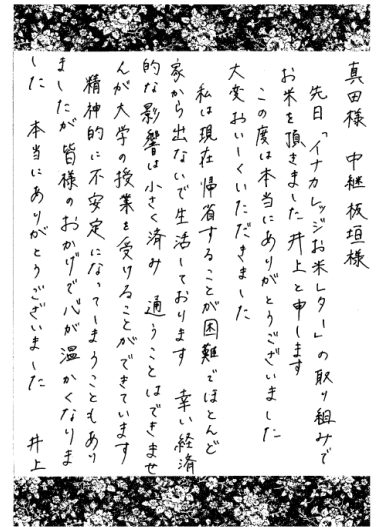
受け取った学生は、農家さんに手書きのお礼の「手紙」を出し、新型コロナが落ち着いた段階で、「お礼&お手伝いツアー」を開催。



学生からは「すごくありがたかった」という声が多数挙げられ、一方の農家さんも学生が丁寧に書いた手紙を受け取り「感動した」など、双方にとって“関わりのきっかけ”が出来た。



#イナカレッジお米レター





# 日帰り・数日型プログラム（おてつだいPlus）



ル・レクチェの収穫作業



空き家の掃除



赤カブの収穫作業



蔵の掃除



# 通い型プログラム



にいがたknow村プログラム



お母さんの知恵袋プロジェクト



トビラ



トビラ



# 滞在型プログラム（1か月地域インターン）



鮎谷集落インターン（2019関川村）



中継集落インターン（2019村上市）



矢田集落インターン（2019柏崎市）



川井地域インターン（2019小千谷市）



# 長期滞在型プログラム（半年～1年）



アグリパス（2020小千谷市）



アグリパス（2020小千谷市）



長期地域インターン（2012～2017）



企業インターン（2019長岡市）



# 県・市町村等の委託業務



地域おこし協力隊研修



関係人口プログラム（首都圏イベント）



新潟県・市町村移住セミナー



道の駅開業支援、マーケティング等



## インターンシップ参加者・受入地域

---

(2012年度~2019年度)

**長期（1年）地域インターン 延べ35名**（主に社会人）

**短期（1か月）地域インターン 延べ113名**（主に大学生）

**長期（半年）企業インターン 3名**（学生）

**受入 延べ55地域・団体**

**定住した人 家族まで入れれば40人くらい**

**その後も地域に関わり続ける人 多数**



# にいがたイナカレッジの取組整理

【目指すもの】

**地域に共感して、一緒に汗を流して一緒に活動する、地域の“多様な担い手”を増やしたい。**

## 【地域にとって】

過疎化が進んでもその地域に関わる人や応援する人（共感者）がいて、それによって地域の人たちが「この地域は価値あるものなんだ」「まだまだ頑張れる」という前向きな気持ちで活動に取り組む地域・人を残していきたい。

## 【地域に関わる若者等にとって】

農村地域の人や暮らしに触れることで、様々な価値観に出会い、自分に合った“生き方”を見つけるきっかけを提供したい。

【関係人口をつくる要素】

**場所 × 場面**

(地域に入っていくきっかけづくり) (関係性を育むきっかけづくり)

### ○お手伝い型プログラム

(半日～数日型)

地域の「ちょっと人手が欲しいな」という時にお手伝いに行くという分かりやすさ、受け入れ易さ

### ○地域づくり型プログラム

(週末通い型～1か月間)

これから地域としてこんな取組をやっていきたいなに対して一緒に汗をかいて実行。(課題解決なんていう大それたものではない)

### ○学び(研修)型プログラム

(1年間)

地域に“暮らしてみたい”若者を対象に、地域の人たちが先生となり、農村で暮らすための知恵や業を学ぶ研修プログラム。

## 直接的効果

「収穫作業を終えることができた」

「地域をPRする冊子ができた」

など、プログラムを通してできる作業や成果物

## 副次的効果

「地域の雰囲気明るくなった」

「地域の若者が活動に参加してくれるようになった」

など、よそ者が地域に入ったことでの様々な変化

## 関係性＝地域への共感

《人の魅力》

《暮らしの魅力》

《コミュニティの魅力》

### 【関係を育むポイント】

- 一緒に過ごした時間×一緒にかいた汗の量(共同体験)
- 顔と名前が一致する規模感
- 1対大勢の受入体制(過疎なのに人まみれ)
- 関係性の深まりのプロセスを描く

## コーディネーターの役割

◇プログラムの成果を導くためのコーディネート

◇関係性を育むためのコーディネート

## 存在承認の関係性

「〇〇さんに会いに行きたい」

「〇〇ちゃんが来てくれて嬉しい」